

◆ 今週のコメント

- 急性脳炎の報告が1例(女性, 0歳代)あります。症状は発熱, 頭痛, 嘔吐, 項部硬直, 意識障害で, 推定感染地域は国内, 推定起因ウイルスはインフルエンザB型です。
- 風しんの報告が1例(男性, 10歳代)あります。検査診断例で, 症状は発疹, 発熱, リンパ節腫脹です。推定感染地域は国内で, 感染経路, ワクチン接種歴は不明です。平成20年1月に, 定点把握対象から全数把握対象の五類感染症に変更されて以来, 年間累積報告数は平成20年 1例, 平成21年 1例, 平成22年 0例, 平成23年 0例となっています。本年の累積報告数は2例です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は38.89(2,489例)で, 先週(36.23)よりも更に増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 17例(肺結核 7例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 7例)うち喀痰塗抹陽性 5例】
- 五類:急性脳炎 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:風しん 1例【1月以降の累積報告数 報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点64, 小児科定点37, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	38.89	2489
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.22	230
	② 水痘	0.76	28
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	24
	④ 手足口病	0.32	12
	⑤ RSウイルス感染症	0.16	6
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

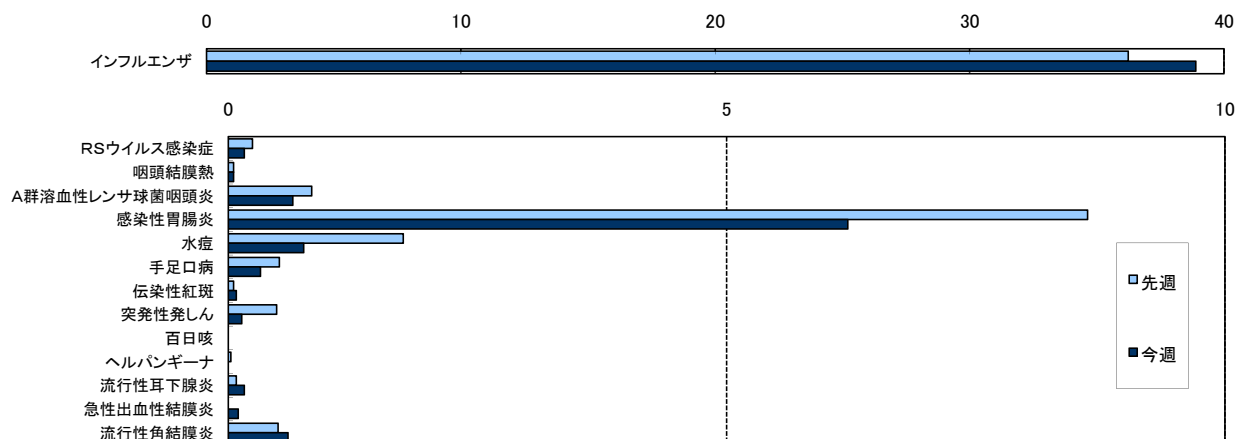
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成24年2月9日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

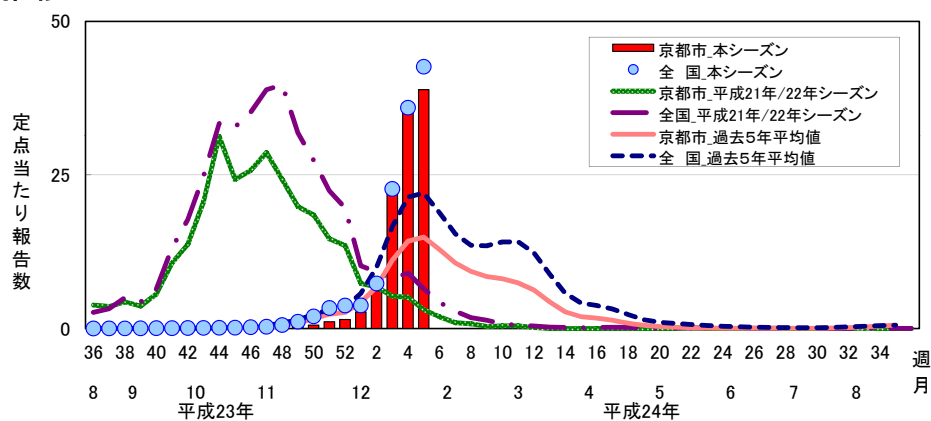
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第5週)と先週(第4週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第1週	173
第2週	393
第3週	1,473
第4週	2,319
第5週	2,489
累積報告数 (第36週以降)	7,094

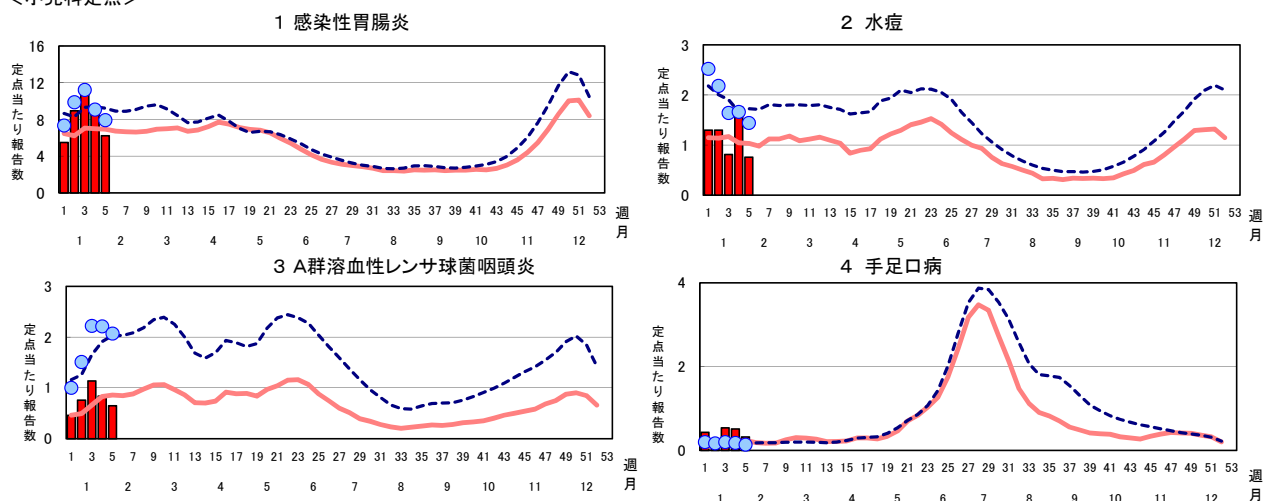


※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

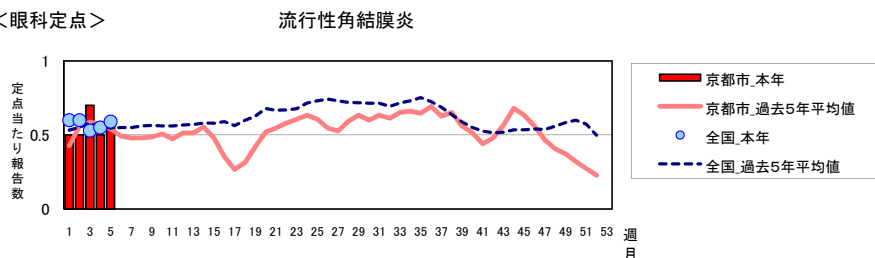
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



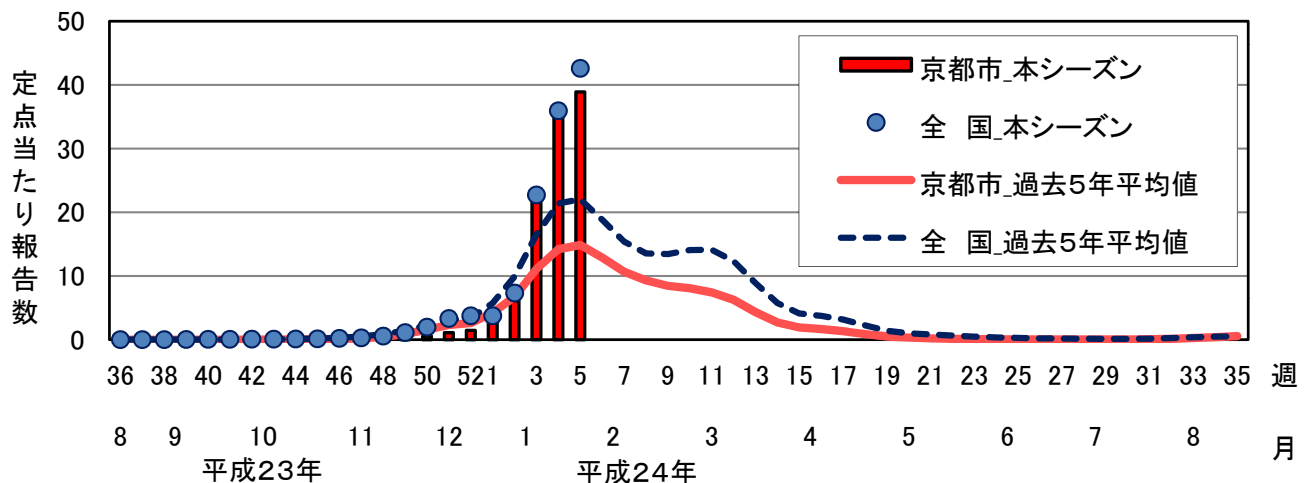
第5週(1月30日～2月5日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は38.89(2,489例)で、先週(36.23)よりも更に増加しています。依然として、警報レベルの「30」を大きく上回っています。

年齢群別では5～9歳が30.2%と最も多く、次いで0～4歳20.5%、10～14歳19.3%の順で0～14歳が70.0%を占めています。

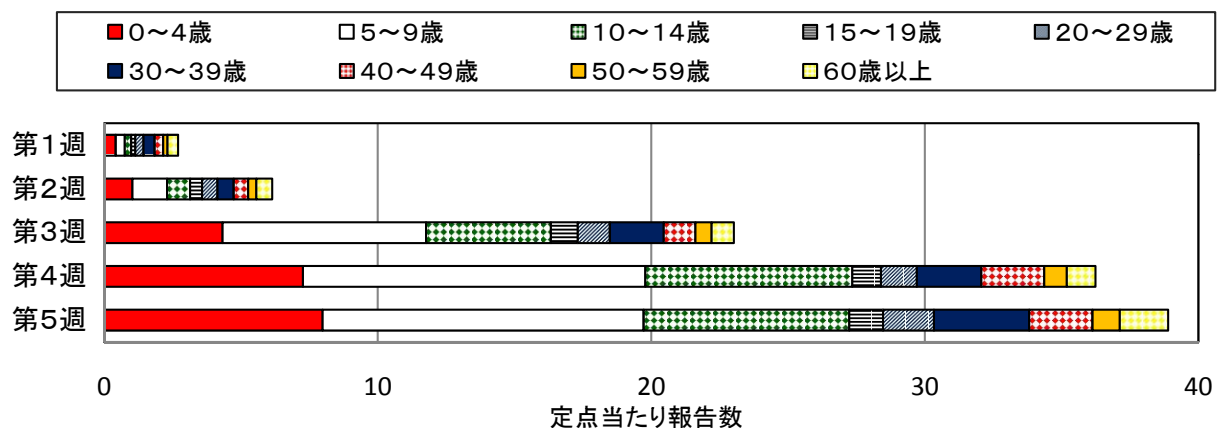
今シーズンに京都市衛生環境研究所では、A(H3)亜型 4例、B型 1例を分離・検出しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年／22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値は、36～52週はH17～H20年及びH22年、1～35週はH18～H21年及びH23の平均値です。

年齢群別定点当たり報告数の推移



年齢群別定点当たり報告割合の推移

